

《路一竹山雨月》1996年



《ジヴェルニーモネの池・静寂》2015年



《印象・湯河原梅林図》2018年

平松礼二展

2023年 3月11日(土) → 5月7日(日)



尾道市立美術館

〒722-0032 尾道市西土堂町17-19 千光寺公園内 Tel.0848-23-2281

休館日：月曜日 開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：大人/800円、高大生/550円、中学生以下無料

※70歳以上、各種手帳（ミライロID可）提示により無料。（団体（20名以上）各100円引）

〔前売：各200円引〕 前売券販売所：中国新聞販売所（取り寄せ）、啓文社各店、JR尾道駅内観光案内所、生協ひろしま

主催：尾道市立美術館、中国新聞備後本社

後援：広島県、尾道エフエム放送、ちゅピCOM おのみち、エフエムふくやま 特別協力：町立湯河原美術館



■上段 左.《路・月あかり》1986年
右.《モネの池に蜻蛉》2007年

■下段 左.《NEW YORK-DREAM TOWER》1994年
中.《2000年8月号 向日葵》2000年
『文藝春秋』表紙原画
右.《爽快富士》2018年



平松礼二は、現代日本画壇を代表する画家の一人であり、絵のまち尾道四季展審査員を2000年から務めるなど、尾道ゆかりの作家です。

伝統絵画の琳派を現代感覚で蘇らせた「路」や「睡蓮」シリーズなど、独自の風景画や花鳥画を描き、近年、フランスのジヴェルニー印象派美術館(2013, 2018)やドイツのベルリン国立アジア美術館(2014)で個展を開催して成功するなど、国内のみならず海外からも高い評価を受けています。

2021年には、フランスの芸術文化勲章シュヴァリエを受勲され、その長年にわたる画業の研究、発表の功績が認められました。

本展は、平松礼二が名誉館長を務める町立湯河原美術館の全面協力により、初期から近作までの大作を含む作品を展示し、その多彩な芸術を紹介いたします。

関連行事 (会期中)

□特別記念対談 「平松礼二の世界」

平松 礼二 氏 (画家、順天堂大学客員教授)
石川 健次 氏 (美術評論家、東京工芸大学教授)
日時：3/11(土) 午前10時～(1時間程度)
場所：尾道市立美術館 2F ロビー
参加無料、申込み不要。※要 観覧料。

□ギャラリー・トーク ※当館学芸員が担当

日時：3/19日(日)、4/16(日)
両日 午後2時～(40分程度)
参加無料、申込み不要。

□こどもと大人の鑑賞会

日時：3/26(日)、4/23(日) 両日 午後2時～3時
鑑賞資料をもとに、作品鑑賞していただけます。
中学生以下対象。付添いの方1名は無料で入館。
参加無料・申込み不要。

□記念茶会

日時：4/22(土) 午前10時～午後3時
会場：尾道市立美術館 2F ロビー
協力：茶道裏千家淡交会尾道支部
料金：1,000円 (観覧料を含みます)
※ 詳細は尾道市立美術館 (0848-23-2281) までお問い合わせください。

アクセス

【公共交通機関】

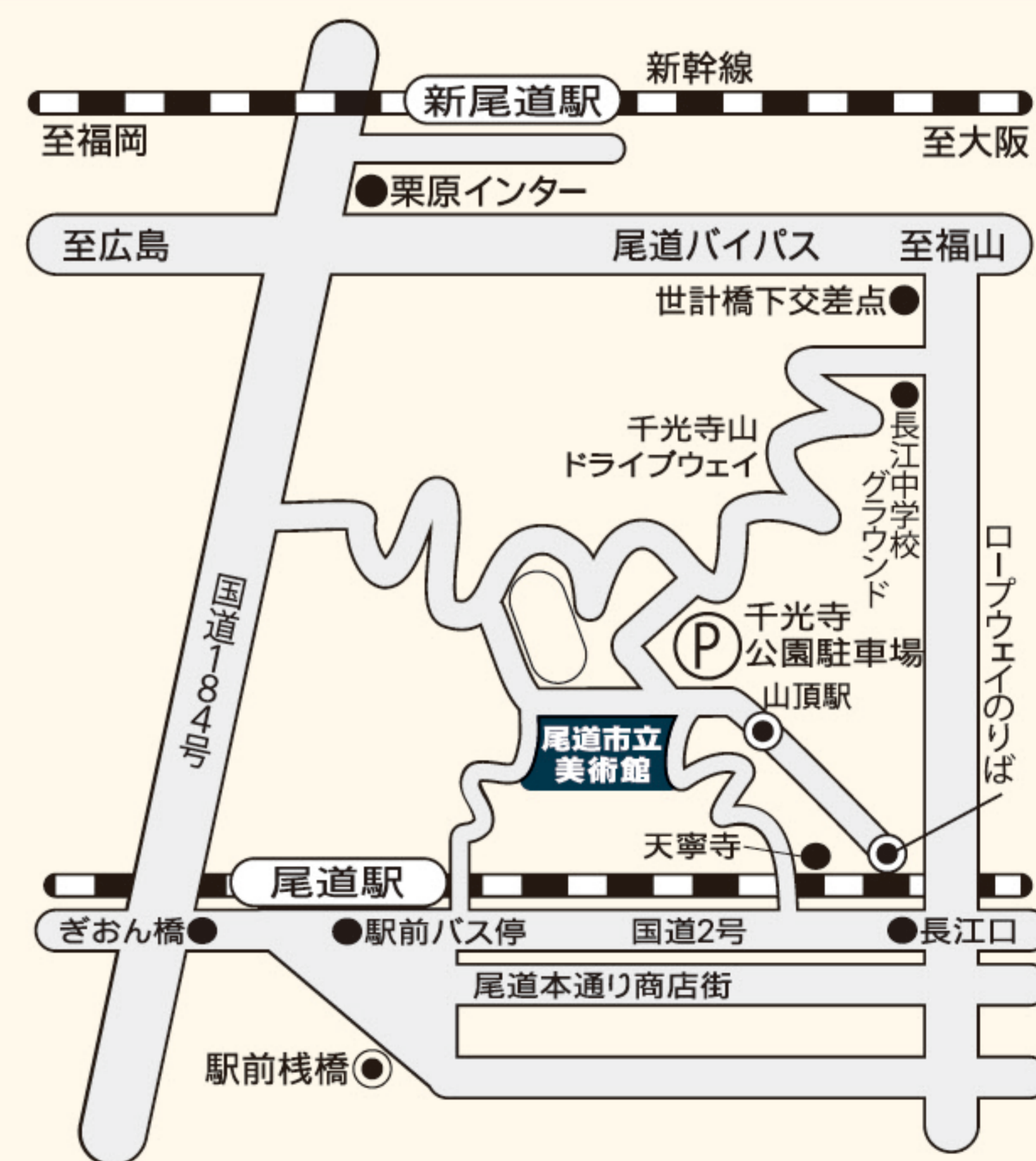
JR「尾道駅」から東行きバス(①番のりば)で「長江口」下車、千光寺山ドライブウェイで千光寺公園へ。
または、JR山陽本線「尾道駅」、JR山陽新幹線「新尾道駅」からタクシーで約15分。
※美術館最寄りの「千光寺公園」行きバスは便数が少ないのでご注意ください。

【自動車】

山陽自動車道・尾道ICから約20分、福山西ICから約15分 ※千光寺山ドライブウェイから「千光寺公園駐車場(有料)」ご利用の場合、入館時に駐車券の提示により1名限り200円割引。

〒722-0032

広島県尾道市西土堂町17-19 千光寺公園内



COCORONOMICHI

*COCORONOMICHIとは、一人ひとりが尾道市への愛と誇りを抱くことを目的とした「シビックプライド」キャッチフレーズです。

【ご来館のお客様へご協力をお願い】

- ・過去2週間以内に感染が拡大している国・地域への訪問歴のある方は来館をお控えください。
 - ・発熱や咳の症状のある方は来館をご遠慮ください。
 - ・入館の際には、マスクの着用、検温、手指の消毒などをお願いしています。
 - ・会期の変更、入場制限を行う場合があります。
- 最新情報は美術館公式ホームページでご確認ください。

尾道市立美術館
公式ホームページ <https://www.onomichi-museum.jp/>

